



年頭のあいさつ



公益社団法人 京都保健会
理事長 三浦次郎

全職員・友の会の皆さん。あけましておめでとうございませう。

昨年11月3、4日、品川で全日本民医連第二回中小病院交流集会在開催されました。全国44県連122病院から500名近い病院の幹部（院長・事務長・看護部長など）が一堂に会し、中小病院の生き残りと発展のためにどうするかについて、ギッシリ中身のつまった論議をしました。

全国の病院の経常利益はどんどん低下し、2001年3.2%から2007年0.0%まで落ちています（福祉医療機構「病医院の経営分析参考指標」より）。大雑把にいうと全国の半分の病院が赤字だということです。民医連も各地で必死の取り組みをしていることを胸に詰まるほど実感しました。

全日本民医連会長が、挨拶で「経営に苦しんでいるところは『自分達のしたいことを自分達だけでする』傾向が強かった。そういう時代は終わった。選択と創造の分析と決断が迫られている」と言われたのが印象的でした。キーワードは、徹底した分析、医療目標の明

確化（発展させる分野・捨てる分野の仕分け）、質の向上、在宅医療の強化、県連内連携、競争的環境の中での地域連携、地域の絆作り（JPH含む）、対外発表ということになるでしょうか？

「中小病院が日本の医療を支えている」というのは、私たち民医連だけでなく、四病院団体協議会も日本医師会も同じ認識です。一方、政府は、今までも、今後の医療政策でも、中小病院はほとんど重視せず、むしろつぶす対象としてみています。民医連の病院はほとんどが中小病院です。日本の医療を守るため、負けてはいられません。

昨年12月の総選挙は、3年前の期待を裏切った民主党に厳しい審判が下されました。しかし、結果は、国民にとってより厳しい政策が実施されることが予想されます。国民が安心して暮らせる社会をつくるため一致団結してがんばっていきましょう。そのためにも引き続き、他の医療機関・事業所からも、患者・地域住民からも、「選びたくなる・行きたくなる」病院・事業所になることを目指していきます。

吉祥院病院 病棟を3階から2階に引越す

昨年8月に着工した増改築工事、2階改修と増築棟建設の第一期工事が11月末に終了しました。

廊下幅や各部屋の面積を拡張し、7人部屋を解消、個室も増えました。クロスや床材も「明るい色・落ち着いた色」と職員で何度も話し合い、調和の取れた材質で仕上がっています。要望の高かったLED電球は廊下などを中心に設置し、浴槽も寝たきりの方も入浴できる機械浴と個浴の2つがあります。外



から見ればまだ工事の真つ最中ですが、2階は新装で別世界のようなようです。12月1日は待ちに待った病棟を引っ越しました。3階の入院患者さん一人ひとりを職員総出で2階に移って頂き、「広くなったな」「綺麗になったな」と入院患者さんもお喜びされました。収納スペースもたくさん設置し、廊下に車椅子や便座、物品などを置きっぱなしにすることもなくなりました。

12月からの第二期工事は3階部分、今年3月からの第三期は、北館1階部分、そして最後に5月からの第四期工事で、現在の外来エリアを改修し、複合型サービスエリアを設けます。丸1年に及ぶ改修



は8月末に終了する予定です。工事の安全を願いつつ、地域のみなさんのリニューアルへの期待に応えるべく、引き続き職員一同奮闘する決意です。（事務長 川見均）